

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381046

研究課題名(和文) ポストモダン以後の教育哲学における規範の再創出 ポスト構造主義のフロイト解釈から

研究課題名(英文) Re-creation of norms in educational philosophy after postmodernism: From the viewpoint of interpretation of Freud's thought in post-structuralism

研究代表者

下司 晶 (GESHI, Akira)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：00401787

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：現代の教育哲学は、ポストモダニズムの影響によって、今後の教育が目指すべき方向を語ることに困難になったといわれる。では、教育哲学はどのようにポストモダニズムを受容してきたのか。本研究では以上の課題意識から、教育哲学のポストモダニズム受容と、ポストモダン思想の積極的な価値を検討してきた。ポスト構造主義のフロイト解釈を参照しつつ、啓蒙と自律という観点は、現代の教育哲学においても重要であることを指摘した。

主な研究成果として、『教育思想のポストモダン 戦後教育学を超えて』(勁草書房、2016年12月)を出版した。

研究成果の概要(英文)：Due to the influence of postmodernism, educational philosophy today is said to have become difficult to tell the direction that future education should aim for. Then, how has educational philosophy accepted postmodernism? This research has examined the acceptance of postmodernism in educational philosophy and the positive value of postmodern thought from the viewpoint above. With reference to interpretations of Freud's thoughts in post-structuralism, it is pointed out that the viewpoint of enlightenment and autonomy is also important in educational philosophy today.

As a major research result, 'Postmodernism in Educational Thought: Beyond Postwar Pedagogy(Keiso Shobo, December 2016)' has been published.

研究分野：教育学

キーワード：教育哲学 教育思想史 ポストモダン思想 ポストモダニズム

1. 研究開始当初の背景

近年の教育学では、今後の教育が目指すべき理想や理念が語りにくい状況にあるといわれるが、それは 1990 年代にポストモダン思想を受容したことに起因するといわれる。以上が研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

そこで本研究では、教育哲学におけるポストモダニズム受容のあり方を問い直し、ポストモダニズム以降の教育哲学において目指すべき教育のあり方を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

大きく分けて 3 つの主題に沿って、研究を進めてきた。

教育学のポストモダン思想受容の検討

第一に、教育学のポストモダニズム受容のあり方を、教育哲学と教育思想史を中心に検討した。教育哲学・教育思想史のメタ批評ともいべき研究である。そのため、教育哲学会『教育哲学研究』や教育思想史学会『近代教育フォーラム』などの学会誌を分析した。

ポストモダニズム以降の規範・価値・理念の提示

第二に、ポストモダニズムの批判を受け止めた上で、現代の教育哲学が継承すべき規範・価値・理念のあり方を提示した。

教員養成・教育実践との関連

第三に、ポストモダニズム受容以降の教育哲学 / 教育思想史のあり方について、学校教育

や教員養成の課題に即して検討してきた。

4. 研究成果

以下に研究成果の概要をまとめる。

教育学のポストモダン思想受容の検討

教育学のポストモダニズム受容のあり方を、教育哲学と教育思想史を中心に検討した成果としては、単著書『教育思想のポストモダン 戦後教育学を超えて』を最終年度に刊行した。これまで教育学におけるポストモダン受容をまとめたかたちで検討した研究は存在しなかったため、一定の成果を残せたと考えている。

ポストモダニズム以降の規範・価値・理念の提示

ポストモダニズムの批判を受け止めた上で、現代の教育哲学が継承すべき規範・価値・理念のあり方について、『教育思想のポストモダン』、編著『「甘え」と「自律」の教育学』等にて提示した。

教員養成・教育実践との関連

ポストモダニズム受容以降の教育哲学 / 教育思想史について、学校教育や教員養成の課題に即して検討し、編著『教員養成を哲学する』、『教員養成を問いなおす』、『道徳教育』等にて示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9 件)

1. 相馬伸一・下司 晶・室井麗子・小山裕樹・生澤繁樹「教育思想史の「裏面」を問う 「古典」はどう読まれてこ

- なかったのか」『近代教育フォーラム』25号, 2016年9月, pp.166-172. (査読なし)
2. 下司 晶・木村拓也「『教育学の古典』に関する意識調査 教育哲学会第五七回大会研究討議参加者を対象として」『教育哲学研究』112号(2015年11月), pp.232-238. (査読あり)
 3. 下司 晶・青柳宏幸・本田伊克・木村元「『戦後教育学』のアリーナ 政治・ディシプリン・教育運動」『近代教育フォーラム』24号(2015年9月), pp.149-155. (査読なし)
 4. 下司 晶「国民の教育権論をフーコーで組み替える 教育思想のポストモダン・序説(道德教育篇) (シンポジウム 社会の構想と道德教育の思想 源流から未来を展望する) 『近代教育フォーラム』24号(2015年9月), pp.88-94. (査読あり)
 5. 下司 晶・矢野智司「研究討議 『教育学の古典』はいかに創られ、機能してきたのか 教育哲学のメタヒストリー 研究討議に関する総括的報告」『教育哲学研究』111号(2015年5月), pp.19-25. (査読あり)
 6. 下司 晶 2014「批判の力は連鎖する」, 教育思想史学会『近代教育フォーラム』第23号, 2014年10月, pp.1-4. (査読なし)
 7. 下司 晶・綾井桜子・白銀夏樹・辻 敦子・須川公央・森田尚人・森田伸子・今井康雄 2014「教育思想史の課題と方法・再論 森田尚人・森田伸子編『教育思想史で読む現代教育』を手がかりに」, 教育思想史学会『近代教育フォーラム』第23号, 2014年10月, pp.217-226. (査読なし)
 8. 下司 晶 2014「『教科化』時代にふさわしい道德教育の方法とは 「新しい道德教育』は何を意味するのか」, 『教職研修』2014年9月号, pp.76-78. (査読なし)
 9. 下司 晶 2014「見失われた啓蒙のゆくえ 教育哲学と教育実践、その関係性の転換」, 教育哲学会『教育哲学研究』第109号, 2014年5月, pp.42-48. (査読あり)
- [学会発表](計5件)
1. 下司 晶・相馬伸一・鈴木宏・尾崎博美・日暮トモ子・塩見剛一「教育思想史の誕生 ドイツと日本」教育思想史学会第26回大会、コロキウム1、2016年9月10日、於 武庫川女子大学(兵庫県西宮市)。
 2. 相馬伸一・下司 晶・室井麗子・小山裕樹・生澤繁樹「教育思想史の『裏面』を問う 「古典』はどう読まれてこなかったのか」教育思想史学会第25回大会、コロキウム1、2015年9月13日、於 慶應義塾大学三田キャンパス(東京都港区)。
 3. 下司 晶・青柳宏幸・本田伊克・香川七海・木村元「『戦後教育学』のアリーナ 政治・ディシプリン・教育運動」教育思想史学会第24回大会、2014年10月11日、於 慶應義塾大学三田キャンパス(東京都港区)。
 4. 下司 晶・矢野智司・綾井桜子・藤本夕衣・室井麗子「『教育学の古典』はいかに創られ、機能してきたのか 教育哲学のメタヒストリー」教育哲学会第57回大会研究討議、2014年9月13日、於 日本女子大学生田キャンパス(川崎市多摩区)。
 5. 下司 晶・青柳宏幸・長谷川千恵美・柴山英樹・松嶋哲哉・松岡侑介「『教科化』の時代に道德教育を考える 教育内容と指導方法の観点から」, 日本大

学教育学会 2014 年度春季大会, 課題
研究 1, 2014 年 6 月 21 日, 於 日本大学
文理学部 (東京都世田谷区).

(1) 研究代表者

下司 晶 (GESHI, Akira)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号: 00401787

〔図書〕(計 6 件)

1. 下司 晶『教育思想のポストモダン
戦後教育学を超えて』勁草書房, 2016
年 12 月, 324 ページ. (査読なし)
2. 井ノ口淳三編『道德教育 改訂版』学
文社, 2016 年 9 月(下司 晶「道德性の発
達理論とその臨界 フロイト、ピア
ジェ、コールバーグ」, pp.50-77 を執筆).
(査読なし)
3. 下司 晶・須川公央・関根宏朗編『教員
養成を問いなおす 制度・実践・思
想』, 東洋館出版社, 2016 年 3 月, 全 226
ページ, 執筆担当ページ 3-11, 84-111,
217-223. (査読なし)
4. 下司 晶編『「甘え」と「自律」の教育
学 ケア・道德・関係性』世織書房,
2015 年 5 月, 全 255 ページ, 執筆担当
ページ 3-5, 126-144, 215-249. (査読な
し)
5. 林泰成・山名淳・下司 晶・古屋恵太編
『教員養成を哲学する 教育哲学に
何ができるか』東信堂, 2014 年 9 月, 全
341 ページ, 執筆担当ページ 3-14,
74-79, 124-150, 151-182, 277-314,
319-322. (査読なし)
6. 広田照幸・宮寺晃夫編『教育システムと
社会 その理論的研究』世織書房, 2014
年 8 月, (下司 晶「ポストモダニズムと
規範の喪失? 教育哲学のポストモダ
ン思想受容」pp.297-321、「社会/教育の二
分法を超えて」pp.233-239 を執筆). (査
読あり)

6. 研究組織